

このところ毎朝、家の玄関を出ると目の前の乙黒桜と銀杏の木をながめています。桜の葉はまだらに日々赤みを増し、銀杏は黄色がだんだん濃くなっていきました。そして今は、はらはらとその葉を落としはじめています。木の葉が無くなった頃には木枯らしが吹くことでしょう。

さて、「DPCホスピス支援の会」の皆さまには、日頃大変お世話になっております。「私たちの医療は地域の人々と共に」をモットーに日夜がんばっておりますが、それを支える源が「支援の会」だと思います。DPCホスピス祭りをはじめ、ピアノコンサートやお茶の会、四季折々の催し物や飾り付けなど、様々なところでお世話になっております。「玉穂ふれあい診療所に来て良かった」と患者さんに喜んで頂けるのは、支援の会の皆さまのおかげです。



医療は、医師や看護師などの医療者だけでは成立しません。多くの市民の関わりと共同作業によってのみ成立するものと考えます。とくに高齢者の多くなるこれからの社会においては、様々な人々の協力が必要になります。

私たちのめざす医療はそうした医療です。今後も、ご指導ご協力の程、よろしくお願い致します。



医療法人どちペインクリニック
理事長 土地邦彦

編集後記

2019年ホスピスカレンダーが出来ました。平成も4月で終わり新しい年号に入ります。新しいカレンダーでは、西暦で表示しています。また感想などは是非お聞かせください。支援の会も17年目を迎え、また新たな出発です。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

開催日 決定 第17回 DPCホスピス祭り

2019年5月26日(日曜日)

医療法人どちペインクリニックのホームページを絶賛更新中!
<http://www.dpc-hos.or.jp>



つくしんぼ



点から線分上でものを見る

日頃 『医療法人どちペインクリニックのホスピスを支援する市民の会』の活動にご理解ご協力をいただき誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。お陰様で 総会も無事終わりました。総会資料の中でも読み取れますように これからもっと 市民運動として 会員及び特別会員の会員拡大に力を入れていきたいと考えております。ぜひ皆様方におかれましても支援の会の趣旨をご理解のうえ ご協力賜りますようお願い申し上げます。

ところで 先日 我が仏教系の小冊子に“終末期医療に対する疑義”という記事が載っていました。要は ガン末期になって痛みの緩和ケアをするためにモルヒネを打つと 意識が朦朧として その患者様の意思の伝達が十分にできないので 終末期医療としてモルヒネを使用するのは如何なものかという話です。

ありゃあ この方(お坊様!) 駄目な所を観て それだけでもものを言っている。即ち 点の部分だけで論じていらっしゃる。できれば 我々が支援活動している「医療法人どちペインクリニック」の終末期医療の対応を観ていただきたい! 「玉穂ふれあい診療所」では“患者のいのちに寄り添う”医療を目指しています。“いのちに寄り添う”とは 患者様の病状や生活状況に応じて 在宅でも診療所の施設でも 患者側に選択権があり より良い治療や療養が受けられるように工夫されております。具体的な緩和ケアの使用する薬も 患者様の体質や病状によって細部にわたって対応されております。しかも 他の医療機関では見られない“患者様の心の思い”に寄り添って 毎日の診療所での生活を通して 人生に於いて悔いのないようドクターと医療スタッフが精一杯尽くされております。だから その人らしく精一杯生きると“納得のいく死”とか“幸せな死”が存在するのです。それを実践しているのです。それが医療法人どちペインクリニック玉穂ふれあい診療所の“医療哲学”なのです。

さて 来年の『ホスピスカレンダー』をお届けします。この顔つき この風景 みんな魂が燃えています。輝いています。この暦を手にする方々の心の輝きを願っております。

これからもご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

医療法人どちペインクリニックのホスピスを支援する市民の会

代表 吉田永正



2019年

ホスピスカレンダー

感謝の気持ちを込めて贈るカレンダー



このカレンダーは、(医)どちペインクリニックに関わるみなさんの幸せを願い、生き生きとした生活を送っていただきたいという思いを込めたオリジナルのカレンダーです。

各月ごとに診療所で撮影した写真、ボランティアグループ「パルシップ」の和菓子、そして吉田代表の色紙を載せています。どうぞ毎月、楽しみながらご活用ください。

カンボジアからのお客さま



今回の報告では、子どもたちの日常風景やHOCがオープンしたカフェの様子、またカンボジアから日本の広島に来て、がんばって勉強している中学生の話など、動画やスライドを使って紹介してくれました。

子どもたちの明るい笑顔とがんばっている姿を見て、私たちも大きな感動と勇気をいただきました。



カンボジア バッタンバン州の児童養護施設HOC(Hope Of Children)から、カンボジアの子どもたちの未来に向けた自立支援活動を続けている岩田亮子さんが、現地の様子を報告に来てくれました。

DPC ホスピス支援の会では、岩田さんの活動に賛同し、4年前からホスピス祭りの収益の一部をHOCに支援しています。

第17回定期総会 記念講演会

「被災地支援を続けて見えてきたもの」 ～正しいという価値観のぶつかり合いの中で得たこと～



2018年11月10日(土)多くの会員が出席され、第17回定期総会が開催されました。新年度を迎えるにあたり、会員の心をつにし、新たな決意とともに活動を進めていくことを確認しました。

第Ⅱ部では、全国の災害被災地での支援活動や、マンションを使った介護事業所を運営する「柵ぐるんとびー」の代表である菅原健介氏の講演で、お互いの価値観を理解し、連帯意識と共有価値観を持った中で、共生に向けて対話する社会づくりが大切なことを教えていただきました。

記念講演 聴講者の声

目の前に困っている人がいて、その人を助けたいという複数人の思いが、違う方向を向いてしまった時、何が正しい、何が間違っているということではなく、お互いが尊重し合い、相手がどうすれば幸せになれるかを考えることが大切であると学びました。

私は看護師をしています、一人の患者さんのために看護師一人ひとりが、その人を幸せにしたいという思いがぶつかることは、看護の世界で

も多々あります。だからこそ、患者さんに対しての話し合いが毎日あり、チーム全員で一人の患者さんの命に寄り添うためにはどうすればよいかを日々模索しています。患者さんの人生というストーリーを私たちは共に歩いていくのだと思います。

それぞれ、感じ方、聞き方、考え方が違うのが人間です。最初から同じ考えである必要はなく、一人ひとりが違って良い。その個々の違いが相乗効果となり、よりよい方向へ導かれていくのだと改めて感じました。

病棟 看護師 河西 慎司

私は、2011年7月17日に東日本大震災の支援ボランティア活動で宮城県石巻市に行きましたが、何もかもが飲み込まれ、町全体が破壊されている風景を目の当たりにして、私たちは、ただその災害の大きさに言葉を失ってしまいました。その時は、地域の皆さんに 私たちに出来る最大限の癒しを届けたいと夏祭りを企画しました。限られたスペースではありましたが、ホスピス祭りの様に大勢の近隣住民の方々が集まってきて、喜ばれたことを思い出しました。

しかし、菅原さんの講演を聞いて、住民の皆さんにもそれぞれの思いがあり、ボランティア間で

も価値観の違いで、意見のぶつかり合いがあったことを知りました。長い間、現地で自分たちのボランティア活動をしながら、ボランティア間のコーディネーターを勤めた菅原さん達の苦勞を思うと、今更ながら頭が下がる思いです。

現在は「防災力=地域力」で人として繋がる地域を創ろうと奮闘されている話を聴きました。私達の医療活動も、多くの人に支えられて、地域と繋がり共に生きているので、この繋がりを大切に、「困っても何とかなる地域」をみんなで創っていきたくて思いました。

外来 看護師 石原さつき